

歴史的な希望の第一歩となることを

臼山 利信

ただいま紹介にあずかりました JACTFL 理事の臼山 (筑波大) です。それでは、謹んで、総括コメントをさせていただきます。

午前中の吉田先生、冨作先生の基調講演に始まり、午後は境先生、迫田先生、長谷川先生、立花先生、村上先生、森住先生によるパネルディスカッション、そして、今日集った参加者全員による6つの分科会が行なわれました。それぞれが非常に中味の濃い、知的刺激に満ち溢れていましたので、わたくしも含めて、参加者のお一人お一人がいろいろな大きな意味で触発を受けたのではないかと思います。今日のシンポジウムは、ハーバード大学サンデル教授の白熱教室さながらの白熱シンポジウムといった様相を呈していたのではないかと感じました。

基調講演、パネルディスカッション、分科会と表現する形は異なりますが、わたくしなりの理解では、はっきりと浮き彫りにされ、見えてきた、一つの大きな共通点、論点というものがあつたと思います。

それは、戦後、時の政治状況などによって多少変容しながらも押し進められて来た、英語教育を中心に据えた一元的な日本の外国語教育の在り方が、今まさに大きな転換期を迎えており、根本的に変わらなければならない、否、国、地方自治体、教育組織の各レベルで、何らかの具体的な手を打って日本の外国語教育のしくみも内実も一刻も早く変えていなければならぬ、という問題意識の共有です。

少し飛躍するかもしれませんが、これから世界はどこへ向かうのだろう、日本はこれからどうなるのだろう、日本の経済は、社会は大丈夫だろうか、原発を含めた環境問題をどう解決したら良いのか、政治も今のままの良いのか、今の大学、学校教育は果たしてこのままで本当に良いのか、将来の日本社会を支えるこれからの若い世代の育成は、万全と言えるのか、などなど、ありとあらゆる問題に対して、肯定的な展望や明確な解決策を描けないでいる、国や組織、あるいは個人の、目に見えない心理的な危機感や焦燥感といったものが、この問題意識の根底に横たわっているように思われます。

しかしながら、今日基調講演で話された吉田先生と冨作先生の力強いメッセージ、6人の先生方がパネルディスカッションで報告され、議論された迫力ある内容、そして全員参加の分科会で交わされた率直な意見交換は、複雑化し、ますます混迷の度合いを深めている世界の動きや、成熟過程を迎えた先進国特有の停滞感や閉塞感が慢性化しつつある日本社会の現状に背を向けることなく、果敢に応戦しようという心意気で、言わば、熱き心を胸に秘めた未来志向の心意気で、日本の外国語教育をより豊かなものに変えていくための、まさしく外国語教育の未来(あす)を拓くための具体的な提案であり、今後の日本の外国語教育政策に寄与すべき優れた知見や見通しの数々であったとわたくしは確信いたします。

本シンポジウムでは、この日本において「人に、社会に、世界につながる」という理念を根底にした新しい多言語教育社会を創造していくことの必要性、また世界の多様性(ダイバーシティ)を生きる人材、世界の多様性に勇んで挑む次世代の若者を共に育てていくことの大切さを確認できたと思います。つまり、英語教育を中心に据えた一元的な外国語教育ではなく、英語教育を中心に据えながらも多元的な言語教育・外国語教育をダイナミックに展開するという、激動する世界と長い退潮傾向からの脱却を求められる日本社会に対応できる、柔軟な外国語教育観が求められているということを確認できたのではないかと、そして、今日の催し全体が、非常に幅広い外国語教育関係者の英知の連帯の輪を大きく広げる貴重な交流・触発の場になったのではないかと思います。

最後に、吉田先生、冨作先生が直接的に言及されたように、また他の先生方も直接・間接に述べられたように、子どもたちの自信を奪う外国語教育から、ことばの持つ力を最大限引き出す、自信をつける外国語教育、自信につながる、広い意味での言語教育への転換が今まさしく求められております。本日のこの催しが将来の日本の外国語教育のあり方を根本的に変える、歴史的な希望の第一歩となることを願い、わたくしの総括コメントとさせていただきます。

(筑波大学)